

みんなどうする？

～多様な活動から未来を考える～

今回で4年目となる4つの都県生協連共催企画による学習会。昨年度から生協の課題でもある幅広い年代、多様な価値観や背景を持つ人たちと課題を共有し、解決に向けた活動や連携（ネットワーク）の在り方など多様な方々からの意見交換の場や、持続可能な参加の場の実践を通じたリアルな声をお聴きしました。

日時：2025年1月18日（土）14:00～16:00

開場：東京都生協連会館 3階 会費室

開催方法：会場参加、オンライン参加（Zoom/YouTube 配信/アーカイブ配信）

参加人数：109名（当日会場32名、オンライ28名、アーカイブ希望49名）

【開催挨拶】 尼崎 英之さん（千葉県生協連 専務理事）

【基調報告】 安田 菜津紀さん（認定 NPO 法人 Dialogue for People 副代表・フォトジャーナリスト）

【活動報告1】 能條 桃子さん（NO YOUTH NO JAPAN 共同代表）

足立あゆみさん（NO YOUTH NO JAPAN 共同代表）

百瀬 紋乃さん（日本生活協同組合連合会）

【活動報告2】 五十嵐 実さん

（NPO 法人湘南クリーンエイドフォーラム代表理事）

【司会】 和氣 未奈さん（日本生活協同組合連合会）

《以下文責：事務局》



国際協同組合理年

協同組合はよりよい世界を楽しみます

【スケジュール】

14:00 開会・開会挨拶

14:05 基調報告

14:40 活動報告1

15:00 活動報告2

15:20 休憩

15:30 全体ディスカッション

16:00 閉会



主催者挨拶
千葉県生協連
専務理事 尼崎 英之さん



司会
和氣 桃子さん



全体ディスカッション
五十嵐さん 百瀬さん 足立さん 能條さん 和氣さん 安田さん



安田 菜津紀さん



百瀬 紋乃さん



能條 桃子さん



足立 あゆみさん



五十嵐 実さん

16 歳、パスポート取得時に父親の出生（在日コリア 2 世）を知り、父親のルーツを探すうちに京都の在特会の襲撃事件、川崎の桜本のふれあい館でのヘイトスピーチ問題から 2020 年のヘイトスピーチ禁止条例成立につながった。ただ、ふれあい館で年始にやるのが、脅迫状等の郵便物の確認すること、今もヘイトクライムは続いている。この連鎖は、身近な差別の放置が蓄積されると巨大な暴力になっていく。それは今の世界情勢にも表れ、今、取材しているガザ地区は、東京 23 区の 2/3 ほどの地域に 220~30 万人が住んでいたが、イスラエルの侵攻で死者 4 万 6 千人、まだがれきの下にどのくらいいるかわかっていない。東日本大震災にガザの子供たちが日本を励ますため手紙や復興を願って凧揚げの活動をする人たちがいた。その中にシャドさんという女性と知り合い情報交換していたが音信不通になっている。そんな中、不平等なパレスチナの女性の雇用をつくる「ガレリアのシンリアナ団体」（パレスチナ女性とユダヤ女性が共同出資）が生産するパレスチナのオリーブオイルを購入するなどの「消費運動（バイコット）」も、ともに生きる（共生）を支え不平等を換えようとすることで、遠いところから命を支える運動につながる。差別もそうだが、共生とは、仲良く不平等を覆すためにどうやって力を持ち寄ることがともに生きることです。身近な差別がこのような暴力を生んでいます。血の通った人間の話ができることが遠い日本からも支えになります。



活動報告 1：コープ次世代ラボ（仮称）の活動について

日本生活協同組合連合会
和氣 未奈さん 百瀬 紋乃さん

NO YOUTH NO JAPAN 共同代表 能條 桃子さん 足立 あゆみさん

（足立）NOYOUTHNOJAPAN は、2019 年 7 月の参議員選挙からインスタで政党名や議員名と顔写真の発信からスタート！現在は、インスタで政治を語る、立候補年齢を引き下げる・YOUTH シンクタンクとして活動を行っています。

（能條）私が 21 歳のときデンマークに留学、友達は当たり前のように政治の話をし、政治を変えられると普通に思っている。日本もそうなればいいなとこの団体をつくりました。私たちが生きている社会は、私たちが作っているのだから変えられる。何もしてなくても社会をつくっている。私たちが賛同するもの、必要なものは私たちで作る。私たちのビジョン「参加型デモクラシーをカルチャーに！」が、まさしく協同組合でやろうとしている参加型で社会をつくと知り、前回の企画で日生協の二村さんと意気投合、「協同組合を好きな子がいる」からコープ次世代ラボ（仮称）につながりました。

（百瀬）この活動は、日生協の 75 周年記念事業（2026 年）の活動企画の一つとして立ち上げ、この事業の目的の一つ「感謝と対話」で若い世代を含めた幅広い人々との対話の機会を設け、つながりを広げる、若者への影響力の向上と認知度アップを目標に①日生協のコミュニティスペースを活用（コーププラザの場所支援と運用）、②市民活動を学び発信する（協同組合の取材発信）を考えています。



活動報告 2：NPO 法人クリーンエイドフォーラムの活動について

NPO 法人湘南クリーンエイドフォーラム 代表理事 五十嵐 実さん

この活動を始めるきっかけは、43 歳でリストラ、1 年間失業し何も手につかない時期に昔から好きなサーフィンで乗り越え、好きな海のごみ集めから、フェイスブックなどで仲間が増え、再就職後、湘南で NPO を立ち上げました。活動は①調べるビーチクリーンで、一番多いのがマイクロプラスチック。②神奈川の海岸 150Km を 11 ブロックに分け走破するビーチクリーン駅伝。一番ごみが多いのは横須賀市唐池海岸（東京湾のごみが打ちあがる）。③いろいろな団体と一緒に取り組む活動。④年 2 回、海の大切さを知ってもらう為に地引網をメインに開催、若い親子ずれも多く参加。地域のごみの一掃や状況把握、他団体と協力して地元の海岸を効果・効率的な保全体制の確立を目標に活動していきたいと思ひます。



全体ディスカッション

登壇者との会場の質問・感想、チャットの質問からのディスカッション！

（安田）活動への参加はどのような方が参加しているのか？若い方への参加について

（五十嵐）40代~60代の方がメインで、若い方は、自分の趣味やりたいことが忙しく、意識の高い方だと参加するが、年 2 回の地引網企画は、若い親子づれが多く参加している。企画も大事。

（安田）参加が増える。関心や興味のある事への参加、フックのようなものがあると参加につながる。

(安田) 多様な方への間口を広げるには

(能條) 活動のテーマは違って目指す景色は同じことが多いので、機会や場があれば集まれるが、情報のネットワークがつながっていない。そんな場や機会をコープ次世代ラボ（仮）ができれば。ただ、無関心の方への興味の扉をあけるのは難しい、興味や関心のあることをいつでも用意することが必要。例えば、バレンタインデーに合わせチョコの廃棄や人権等のテーマを取り上げるなど、そのタイミングを逃さないことが大切。

(安田) 参加したいとの共感をつくるにはどうしたらいいのか

(足立) 大学4年ですが、自分に余裕がないと共感が生まれない。共感が生まれるには、余裕ができるように人間的に生きることが大切。ただ、友達や同じ世代の人から言われると関心を持ちやすい。なので、私は、同じU30への情報発信をしている。

(安田) 新しいコープ次世代ラボ（仮）等をつくるとき、今まで気づけなかった視点や発見はありますか

(和氣) 活動していた学生から生協に入って組織のルールで頭がいっぱいになりがちだったが、能條さんのようなベンチャー気質の方から生協の良さやそこが大切だと気づかされた。

(百瀬) 生協内部でも枠にとらわれがちだが、外から見て組織の良さを再発見ができた。他から見た情報発信したい。こんな場やイベントなどの様々な受け皿ができれば、多様な方々が参加しやすくなる。

(安田) 生協とつながることでワクワクしていることは

(足立) 1997年につくられた「生協の21世紀理念」がメッチャいい！「自立した市民の協同の力で、人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現」！この良さをぜひ情報発信し伝えることにワクワク！

(能條) 2024年に、3年後の75周年事業（2026年）の計画をしていることにびっくり！時間軸が違いすぎる。私たちは来月何するか、3ヶ月後を長期計画として行動していた。でも、日生協の方々と一緒だから理念を共有し活動につながる。活動の考え方や動き方、コミュニケーションの違いを理解して、何が違うかを知り学ことが大切。学生のモチベーションは高いが、卒業やメンバーの入れ替えなど体力が続かないが、そこに生協の活動が背骨になって協同できるような場としてコープ次世代ラボ（仮）を実験していくことにワクワクしている。

(安田) 最後に活動を継続するために大切にしていること、モチベーションを維持するには？

(五十嵐) 若い人とつながることが次世代につながる。モチベーションは若い人とつながること。

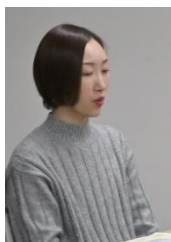
(百瀬) なんでも楽しむ、面白がる、巻き込まれることで、したいと思ったことは口にする、伝える

(足立) 褒められると元気になる。共同代表になって少なくなったけど、他の方から褒められることがいい

(能條) 民主主義につなげる。私がどう生きるは私が決めたい。私が生きる社会を自分たちで決めたい。自己決定できる環境。団体を維持するため大きくすることに固執しないで自分がどう生きたいかをたまに振り返って、たまに整理する。ワークライフバランスではなくワークワクワクバランス（ワークとワクワクのバランス）をつめていきたい。

(和氣)モチベーションを維持するには、人に話す（母に連絡）ことで、動きに自信をもってやる。

(安田) 私は伝える活動をしてきたが、現地のNGOの方に「役割分担だよ！」一人の人間がすべてできるものではなく、出来ることを分け合ってやることで、気持ちがあっさりした。



<参加者アンケート（抜粋）から>

- 3つの報告は、どれもよかったのですが、後半のディスカッションの内容が大変示唆に富む内容でした。
- 視聴後、かなり元気出ました。とても楽しそうにされていたので、私も巻き込まれたいと思いました。
- 4都県連企画で出会えた機会はとても重要な時間、横のつながりを作りたいと思っている人が多いと思った。
- 今日の話聞いて若い世代に希望を感じ、自身も世代を超えたコミュニケーションが必要と感じた。
- どうしたら共感を生みモチベーションを維持できるかのコメントに共感：余裕がないと共感できない、同世代の言葉に共感しやすい、巻き込む・巻き込まれる、動機に自信を持つ、自己決定出来る環境が大切、面白がる。
- 最後の座談会が良かった。ワークワクワクバランスを大切にしたい！若い世代の方の発想も新鮮でした。
- 安田さんの「ともに生きる」考えさせられることがいっぱい、いろいろな思いがめぐり目頭が熱くなった。
- 安田さんの紛争について考えた時、遠くの日本だからこそ関りを続けていかないといけない。
- 五十嵐さんのその時に感じて素直に行動に移せたことが素晴らしい！ネーミングセンスの良さがカッコいい